

架け橋だより

広島市乳幼児教育保育支援センター

幼保小連携推会議

☆チーム園・校で取り組む☆ ～広島市立基町小学校の1年生の先生にお聞きました～



令和8年度の架け橋だよりでは、小学校生活を主体的に過ごす入学直後の1年生児童の様子や、そのために小学校教諭が「何を大切に指導しているのか」といったことについてお伝えします。また、今年度は、広島市立基町小学校に協力していただき、入学直後から1年生の生活や学習の様子をシリーズでお伝えてしておりますので、架け橋期の取組の参考にさせていただければ幸いです。

■幼保小連携会議（第1回）

4月20日に開催された基町小学校区の幼保小連携会議の様子をお届けします。
当日は、アットホームな雰囲気の中で、以下の議題に沿って話し合いが進められました。

<主な議題>

1 自己紹介

2 各園・校の概要

3 カリキュラムについて

4 園児・児童の様子

5 その他

<出席者>

小学校

校長、1年生の担任

幼稚園

園長、主任、年長の担任

保育園

園長、年長の担任



■ 会議内で交わされている協議の一部をご紹介します

H園長 = 保育園長、**H担任** = 保育園の年長の担任、**Y園長** = 幼稚園長、**Y主任** = 幼稚園の主任、**Y担任** = 幼稚園の年長の担任、**校長** = 校長先生、**①担任** = 1年生の担任

□ 保育園では、海賊やリレーが流行って遊んでいるそうです。そんな話がきっかけとなり、自然と可能な取組が見つかり、広がりました。

H園長 今、保育園では、子どもたちの中でリレーが流行っているのですが、保育園の園庭は狭いので、「小学校の校庭は広くていいなあ」と思います。

校長 小学校では、校庭を使っていない時間もあるので、そういったときは、どんどん使ってもらっていますよ。

H園長 え！？使っていない時間なら、行ってもいいんですか。

校長 事前に電話していただければ大丈夫ですよ。

①担任 1年生が体育の授業をしても、例えば、鉄棒の学習などは、校庭で使わない場所がたくさんあるので、使ってもらってもいいスペースを園の先生にお伝えすることもできますよ。

H担任 ありがとうございます。幼稚園とも一緒にリレーができるといいですね。

①担任 そうですね。しかも、幼稚園の所へ保育園が行くのであれば、幼稚園の園庭は広いので、そこでもできますよね。

Y主任・Y担任 そうですね。来ていただいても大丈夫ですよ。

【園児の様子を話す保育園の先生の様子】



□ カリキュラムについての議題に入ると、すぐに話題が膨らみ、日程調整がぐんぐん進みました。

校長 それでは、7月・8月ごろまでの日程を確認していきましょう。ゲストタイム(いろいろな立場の先生が、ゲストティーチャーとして1年生の教室で話をする取組)は、いつにしましょうか。

①担任 園の先生方がよければ、明日からでも・・・。

校長 少しの時間、顔を出していただくだけでも、児童の安心や意欲につながりそうですね。

Y園長 行きます！ 行きます！ 幼稚園は明日からでも行けます！

【前向きに話をする様子】



H園長 保育園からは、4月24日(金)に行きます。

①担任 はい。保育園は、24日にお願いします。

Y園長 で、明日は行ってもいいのでしょうか！？

あははは。(みなさんが楽しそうな雰囲気です)

①担任 あ、先ほど「明日からでも」と言いましたが、やはり児童には、いつゲストティーチャーが来るのかを事前に伝えたいと思いつて・・・。

Y園長 そうですよ。では、22日はどう？(主任・担任と顔を合わせて確認)
23日をお願いします。

①担任 はい、大丈夫です。ありがとうございます。

□ 昨年までの連携を踏まえ、地域ならではの特色に応じた取組が、今年の入学時に安心を生みました。

H園長 以前、「入学時に、子どもが自分の名前がひらがなで書かれた靴箱やロッカーを見つけられなかった」という話を、小学校の先生からお聞きして、あることに気付きました。

園では、外国にルーツをもつ保護者の方に対して、文字で示すものはカタカナを使用しているのですが、子どもがひらがなを目にする機会が少なかったのではないかと思います。そこで園では、子どもの名前をひらがな表記にしてみました。今年の様子はどうか。

①担任 そうだったのですね。今年も、新1年生の児童がひらがなで書かれた自分の名前が分からずに困る場面は、ほぼありませんでした。ありがとうございます。

また、去年は、教科書に英語やネパール語で保護者の方が名前を記載されていたことがあり、学校生活が始まってから、児童同士で誰のものか分からず困ることも多かったのですが、今年も、皆さんがひらがなで書いてくださっていて、児童も認識しやすく、安心だと思えます。園で、そういった配慮をしてくださっていたからかもしれません。ありがとうございます。

【取組について話す様子】



■ 幼保小連携会議後、1年生の先生にインタビュー

先生=1年生の担任、センター=センターの職員

□今年度から、小学校区へ新しく来られた先生が、新たな視点を提案し、それを受け入れ、実践してみようとするのできる小学校区の風土

センター 会議お疲れさまでした。とても和やかな雰囲気、前向きな意見が活発に出る会議でしたね。

先生 前向きに考えてくださる先生方なので、本当にありがたいです。そして、幼稚園の園長先生も気さくな方なので、今年度の連携も楽しく進められそうです。

センター 幼稚園の園長先生は、「私は、おとなしくしなくっちゃ。」とおっしゃっておりましたが、あつという間にチーム基町学区の一員となり、たくさんの考えを出して下さっていましたね。

先生 とてもよいアイデアを出して下さったので、なぜ今まで気付かなかったのだろうと、とても勉強になりました。

センター 給食時間の提案のことですね。面白いと思いました。

先生 はい、そうです。幼稚園では園児が弁当を持参し、保育園では給食が提供されます。幼稚園の園長先生が、「園児が給食の様子を感じられるように、小学校の給食時間に年長児が小学校の教室へ弁当を持参し、給食の時間を一緒に過ごせませんか」と提案して下さったのは、そのためですね。とても素敵な視点なので、ぜひ交流に取り入れてみたいと思いました。

【提案し合う様子】



センター 本当に素敵な提案だと思いましたし、そういったアイデアを出し合える雰囲気が、幼保小連携会議にあるからよいですね。

□計画に基づきながらも、柔軟に取り組めるというベースがあることで、計画や取組がブラッシュアップできる。

先生 基町小学校区の幼保小の先生方が、連携について前向きであることはもちろんですが、本校の校長が、幼保小連携をはじめ、校内の様々な取組を柔軟に見てくださっていることも、先生方が前向きになれる大きな要因だと思います。

センター 確かに、それはあるかもしれませんね。先ほどの会議の中でも、校長先生が「計画の中にあることもそうですが、ないことであっても、できそうなことは連携しながら柔軟にやってみましょう」と、園の先生方におっしゃっていましたね。

先生 そうなんです。そういったことができる関係であれば、私たち大人も安心できますし、幼保小連携がどんどん充実していくというか、園の先生を含め、大人が前向きに取組を進めていこうと思えるようになるのだと思います。

【幼保小で柔軟に連携することを呼びかけている様子】



センター 大事なことですね。ところで、幼保小接続カリキュラムについてお聞きしてもいいですか。

先生 ふふふ。(笑)

センター どうされましたか。

先生 いえいえ、ごめんなさい。接続カリキュラムやスタートカリキュラムといった名称があるので、何だか特別なことをしなくてはいけないと思ってしまいそうですが、まず大事なことは、大人がその時々の園児や児童のことをよく理解しようということだと思います。

カリキュラムがあって活動するのではなく、園児や児童の個性や特性、育ちに応じてカリキュラムを考え、取組を進めていくことが大切なのだと思います。

センター なるほど。こどもの様子に応じてカリキュラムを作成し、取組を行うことを反復することで、幼保小接続も充実する、というイメージですか。

先生 そうですね。計画だけでも、取組だけでもなく、試行錯誤しながら、その両方を柔軟に園児や児童に合ったものにしていくことしかないと思っています。

センター 幼保小接続も、大人がこどもを中心に据えて考えることで、カリキュラムや取組が自然にブラッシュアップされていく、という感じなんですね。

先生 そのとおりだと思います。これからも、そういったことを大切にしながら、児童や園児が小学校に楽しく登校してくれるように、また、入学を楽しみにしてくれるように、幼保小連携を進めていきたいと思っています。

センター 今日、会議の様子を見せていただいたり、お話を聞かせていただいたりして、ありがとうございました。今度、園の先生方がゲストティーチャーとして小学校に来られたときの様子なども、教えていただければと思います。

先生 はい、いつでも大丈夫ですよ。こちらこそ、ありがとうございました。

□次回は、ゲストティーチャーを招いた時の様子などについて、お伝えできればと思います。